

## 第三章 4) サン・ルイス耕地

(フランシスコ・マスミアノ駅・グアタパラ耕地から3番目の駅)

### 【戦前にサン・ルイス耕地で就労した人々】

\*藤田松男、1912年、巖島丸、熊本県八代市川田町西出身、奥田氏家族構成員、同駅付近で義務農年遂行後、東京植民地に農地を求めコーヒーを育成。幾度と移転を繰返し聖市に在住する。

(「熊本県人発展史」295ページ)

\*井本正兵衛、1913年10月、帝国丸、福岡県朝倉郡神奈川村出身、サン・ルイス耕地で義務農年終了後、リベイロン・プレート市近郊のジベラトラス駅サント・アントニオ耕地で1年就労、幾度も移転して最後はパラナ州トレスバラス移住地パイネーラ区に入植する。(「トレスバラス移住地開拓20周年史」670ページ)

\*小野芳蔵、1914年3月、帝国丸、山口県大津郡深川町出身、同駅ボア・ビスタ耕地に就労すること1ヶ年後、アラクワラ線に移りコーヒー栽培の請負、当時この沿線は破竹の勢いでコーヒー栽培が広がって行った。後年パラナ州トレスバラス移住地パルミットル区に入植する。

(「トレスバラス移住地開拓20周年史」508ページ)

\*疋田栄蔵、1917年4月、若狭丸、滋賀県犬上郡日夏村出身、同駅ボア・ビスタ耕地に就労すること2ヶ年後、ノロエステ線を三転、さらに移転を繰返す。後年パラナ州トレスバラス移住地に入植する。

(「トレスバラス移住地開拓20周年史」348ページ)

\*宮城政繁、1918年4月、若狭丸、沖縄県国頭郡恩納村出身、同耕地に就労後、リンコン駅バルトース耕地で1年就労、転々としながら後年パラナ州トレスバラス移住地サン・ジョン区に入植する。

(「トレスバラス移住地開拓20周年史」694ページ)

\*西宏、1918年8月、博多丸、熊本県田迎町出身、同駅ボア・ビスタ耕地で1農年就労後、グアタパラ耕地寄りのドミンゴ・ビエラ駅付近で借地雑作、二転後東京植民地で綿作に専念した。後年聖市近郊に移転する。

(「熊本県人発展史」477ページ)

\*吉永軍紀、1927年12月、熊本県八代郡揚町出身、同駅ボア・ビスタ耕地に就労すること3ヶ年後、アラクワラ線カンブイ耕地で綿作、ノロエステ線でも綿花に従事する。後年聖市在住。

(「熊本県人発展史」287ページ)

\*白髭白、幸作兄弟、1928年、帝国丸、静岡県榛原郡吉岡村出身、同駅ウシオーワ耕地で就労すること3ヶ年後、モツカ駅付近のキット・ジュンケイラ耕地で綿作の借地1年、ボン・レチーロ耕地で同じく綿作の借地。その後パラナ州トレスバラス移住地に入植する。(「トレスバラス移住地開拓20周年史」278ページ)

\*川野武三郎、1929年3月、備後丸、熊本県八代郡種山村出身、フランシスコ・マスミアノ駅バツソーラ耕地に就労2ヶ年後、サン・マルチーニョ耕地で綿作に従事、クラビーニョス駅付近でも綿作をする。後年パラナ州トレスバラス移住地ロゼーラ区に入植。(「トレスバラス移住地開拓20周年史」625ページ)

\*広田九一、1929年3月、モンテビデオ丸、広島県安佐郡八木村出身、同駅サン・セバスチャン耕地でコロノ生活2年後付近のフィゲイラ耕地で1年。以後リベイロン・プレット付近で18年間の農耕生活。  
(「ブラジル広島県人発展史」76ページ)